いばらきの
地域医療
2010年9月
第21号
■発行・編集／茨城県医師確保支援センター

地域で活躍する医師たち～大漁旗と和漢診療センター

鹿島労災病院 副院長/和漢診療センター　伊藤　隆

大漁旗(小澤克己氏 作)と伊藤医師

鹿島労災病院

写真の大漁旗は、ある患者の方が当院に対する感謝の意で作成、寄贈してくれたものである。本来ならば病院の応接室あたりを飾るべきであろうが、カラフルで活気ある素晴らしい作品なので、医師、医学生に対する病院説明会で展示してみた。結果、多くの関係者の注目を集め、本誌の掲載へ発展したのであった。

そもそも大漁旗は船の新造にあたり、縁者からの祝儀用として贈呈されるものである。ここに描かれる模様は大漁を神に感謝して、船主が船子たちに祝儀として配る祝い着(万祝)に由来するという[1)]。

贈ってくれた方は80歳の男性で、千葉県銚子市の方である。さて、当院は茨城県最南端の神栖市(旧波崎町)に位置し、銚子市は広大な利根川を渡ったところにある。彼は漁業関係者ではなく、元教員である。この品は大漁旗の専門家が作成した「本物」であり、最近は結婚式や退職祝いのときに時々作られるが、退院祝いの品としては珍しいと思う。

彼は、糖尿病性腎症と難治性下痢に、頸椎症性頸随症による下肢の痛みと運動麻痺が加わり、数医を経て、当センターに入院された。下痢は漢方薬を種々用いても治まらず、一時は回復が絶望視された。このため頸椎症の手術ができず、下肢の麻痺症状は進行していった。そこで多量の西洋薬剤の減量を試みた。鎮痛薬は一切止めて、鍼治療で対応した結果、難治性下痢はようやく軽快した。低栄養状態ではあったが、当院整形外科医の手術を迎えることができた。術後の経過は良く、疼痛および麻痺症状の軽減を認め、退院の運びとなった。

当院は医師40人弱、病床300床の中規模病院である。労災病院らしく整形外科は脊椎、膝、手指まで10人の医師を揃え充実している。しかし、産婦人科、小児科、精神科はなく、総合病院ではない。全ての専門領域を網羅することはできないが、施設の不備は職員の熱意とチームワークの良さで補っており、救急患者は年間7,000人を数える。

そんな中で、和漢診療センターは開設10年目を迎えている。全国的にみても漢方薬、鍼灸を本格的に行っている数少ない施設である。中規模以上の病院で、入院患者に煎じ薬を処方することのできる病院は関東全体でも五指に満たない。

診断、治療の難しい疾患だけでなく、この症例のように、病態が複雑でどこの科へ行ったらよいか、わからない患者も来院される。さらに当センターはメンタルヘルスセンターを兼任しているが、看板が「精神科」でないことで、多くのメンタルヘルス不全例の受診機会も増やしている。

この施設に医師が集まりつつある。そして漢方医学に興味ある医師が、人手不足の内科を支えてくれている。漢方医学を学びながら、内科医としての経験を積むことができる当院は、茨城県だけでなく全国的にみてもユニークな存在なのである。

さて大漁旗の効果であるが、病院説明会では多くの医療関係者のご注目を頂けたが、実は会場に来た学生、医師を勧誘する力はいまひとつであり、他のアイデアを模索しているところではある。

参考文献

1) NHKドラマガイド澪つくし、p.80、日本放送出版協会、東京、1985.

患者さんのストレスをいかに少なくするか～麻酔科医からのメッセージ

医療現場で不足する麻酔科医の現状、仕事の内容、
やりがいについて、お話しいただきました。

茨城県立こども病院
麻酔科医師　武田　由記

●マンパワーが必要です

…県内の麻酔科医の現状は？

非常に、不足していると感じています。日中に予定されていた手術は何とかこなしていますが、前日当直で夜間働いていた医師も翌日の予定手術の麻酔をするなど、ぎりぎりでやっているというのが現状です。前日、予定手術が延長したり緊急手術があったりと夜間働いたにもかかわらず、翌日も麻酔をしなくてはならないことが続けば、身体的に疲労が溜まります。集中力を欠いて麻酔をしては、患者さんを危険にさらすことになるため疲れを感じながらも精神的に緊張を強いられます。緊張感をもって麻酔をしなければならないのは当然ですが、身体的・精神的にある程度のゆとりが無くては、十分な注意力をもって麻酔を行なえない可能性もあります。そのためには当直明けは休養がとれるくらいのマンパワーが必要だと思います。

●術前に患者さんの状況をよく知ることから始まります

…こども病院の麻酔科医の仕事とは？

こどもの患者さんだから大変ということも、ある意味あります。私たちの仕事は麻酔をするだけでなく、術前に患者さんの状況をよく知ることから始まり、しっかり説明をして術前の不安を軽減し、術後の様子も診察して痛みなどがあれば対応する、そこまでが麻酔科の仕事です。さらに、こどもの麻酔は、その子だけでなく家族全体を麻酔するつもりでやりなさいと言われます。こどもの場合はマスクで麻酔を開始するのですが、こどもが大暴れしたり大泣きしたりするとお母さんも非常に不安になり、涙ぐんでしまいます。母親が涙ぐんでいる姿を見ると、こどもはさらに不安になります。そのようなことができるだけないように、術前からコミュニケーションをとって、病室を訪ねてマスクを見せて説明します。全く初めて見るよりも、見たことがあると安心しますから、そういうところから関係を築いていきます。また、目が覚めた時に痛くないのかが、本人は一番心配だと思うので、どのような方法で鎮痛をするのか、そういうところをしっかり話して少しでも不安を解消できるように努めています。

特に重症なお子さんは、麻酔をすること自体も大変ですが、ご家族にいかに説明するかに配慮しています。親がこどもを思う気持ちは、親が自分のことで何かあるよりも重大に考えますから。私も子どもがいるので、その気持ちは良くわかります。そういった意味で、こどもの患者さんへの麻酔は精神的にシビアです。外科の先生からも病気自体や手術のリスクについての説明を受け、非常に不安になっているところに、麻酔に関するリスクの説明を受けて不安だらけになってしまう、病気を治すために手術が必要なことはわかるが、麻酔にもリスクがあるなんて…。でも、麻酔は手術というストレスから患者さんを守るのが使命であることをよく説明して理解していただけるよう努めています。

●よりよい術野を提供し、患者さんの負担を軽減

…麻酔科を選ばれたのはなぜですか？

私は全身を診たかったということがあります。それと、学生実習の時に手術を見ていて、その時に麻酔科の先生がいかにやりやすい術野を提供するかを工夫していて、自分もやりたいと思いました。手術というのは、予定的外傷と言われます。よく消毒して、眠って、痛みも取った上で創(傷)をつける。予定的にけがをするようなもの、その創を負うストレスをいかに少なくするか、いかに患者さんを守るかというのが麻酔科の仕事です。よりよい術野を提供することで、手術が早く終わって、結果的に患者さんの負担が少なくなる。病気を治すために必要な手術ですが、そこには精神的・身体的に非常なストレスを伴います。それを軽減するという仕事に魅力を感じました。

●麻酔科医が増えることを期待しています

…仕事のやりがい、喜びは？

麻酔科は、現状では一人の患者さんに接する時間は短いです。患者さんとの触れ合いやコミュニケーションを望んでいる医学生にとっては、内科などに比べると魅力が今一つと感じるかもしれません。でも、もっと麻酔科医が増えれば、術後も見に行くことができるし、もっとコミュニケーションの時間もしっかり取れるようになると思うので、期待しています。

この仕事で一番嬉しいのは、手術が終わって患者さんのところに行って、「全然痛くないし、気持ちも悪くないし、思ったよりも怖くなかった」と言われた時です。こどもの場合は、病室に見に行って、けろっとした顔でジュースを飲んで、テレビを観ていたり、ベッドの上で遊んだりしているのを見ると、よかったなって思います。また、何度も繰り返しの手術・検査で頻回に麻酔をしなくてはならないお子さんもいますが、そういうお子さんの成長や、治療によって少しずつ元気になっていく姿を見ることができるのが何よりの喜びです。

…医学生、研修医の皆さんへメッセージを

茨城県は、麻酔科医が少ない状況ですが、非常にやりがいのある仕事であると思います。また、麻酔科は仕事の性質上オン・オフがはっきりしやすいので、結婚や子育てもやり方次第で可能だと思います。とはいっても、実際のところ、私は一緒に働くほかの先生の助けを得て、ご迷惑をかけながら子育てと仕事をしているというのが現状です。一緒に働く先生方の厚意に頼って何とかやっていますが、本来はシステム的にもっと改善できるはずと思っています。周囲にかける迷惑を最小限に子育て期間を乗り切れるようなシステム、本来はどの科においてもそうあるべきと思いますが、麻酔科はそれを先駆けて実現できる科であると思います。それにはやはりマンパワーが必要です。ぜひ仲間になって、一緒にやっていきましょう。いろいろと教えてくださる先生方もいます。

病院紹介コーナー

財団法人筑波麓仁会　総合病院　筑波学園病院

筑波学園病院は、つくば市の谷田部地区にあり、昭和50年に当時筑波大学副学長であった日本の心臓血管外科を創設した榊原任氏の関連病院2000床構想のもと財界、自治体の応援で財団法人筑波麓仁会として設立されました。筑波大学の診療、教育機能を補完すべく学生実習から初期研修医の受け入れなどで密接な関係をもって現在に至っております。

当院は、初期診療から地域で要求される高度な診療までを目指した専門医と、初期研修医を経てきた後期研修医が、協力し合いながら働いています。

4人の初期研修医枠があり、過去5年で10人の修了者を認定しています。当院は、研修医にとって基本的な医療を学ぶのに十分な症例と、特色ある多くの診療科があります。

当院の利点として、2年間腰を落ち着けて研修に専念することが出来ることが挙げられます。医師、看護師をはじめ病院全体として厳しく優しく見守りながら研修医を育てようとする家族的な雰囲気が醸し出されてきていると思います。

ぜひ一度見学に来ていただきたいと思います。

研修医リレーエッセイ Relay Essay

株式会社日立製作所ひたちなか総合病院
初期臨床研修医　真船　太一

ひたちなか総合病院で初期研修をはじめて半年近くがたちました。ひたちなか市周辺は県内の中でも医療過疎地にあり、当院は地域医療の砦としての役目を担っています。毎日がめまぐるしく過ぎる中で、多くのcommon diseaseと出会い、さまざまなことを学びとれる現場であり充実した毎日が送れています。

自分がこの病院を選んだ理由は各科が細分化されておらず、そのために患者さんを総合的に診られるというところに引かれたからです。実際の問題としてどんな患者さんでも複数の疾患を併せ持っている場合が多いので非常に合理的なシステムだと感じています。

初期研修医とはいえ指導医の先生方には常に「医師としてどう考えどう対処するか」を問われ実際に自分の意見が反映されることもあり、また手技的な面でも多くの経験を積むことができるため非常にやりがいがあり、一方で責任感を持って医療に取り組むことができます。

将来どの専門診療科に進むとしても、この数年間に多くの疾患についてどれだけのことを学び、吸収できるかがこれからの医師人生にとって重要であると信じているので、そうした基盤を作るべく毎日を精一杯頑張っていきたいと思っています。

茨城県からのお知らせ

指導医シンポジウムを開催します

県内での臨床研修プログラムの充実と指導医の資質向上を図るため、11月13日（土）に指導医シンポジウムを開催します。

当日は、アメリカでコミュニケーション関連の教育に詳しいピーター・バーネット氏をお招きし、地域における病院連携の重要性とその改善策について講演いただきます。また、シンポジウムに先立ち、研修医を対象とした医学教育カンファレンスも行います。

地域における患者ケアの質の向上に加え、研修医のための教育プログラムの整備においても病院間の協力は欠かせません。多くの方の参加をお待ちしております。（参加費は無料）

●場　　所／筑波メディカルセンター病院 西館３階 ＴＭＣホール
（〒305-8558 茨城県つくば市天久保１－３－１）
●日　　時／平成22年11月13日（土）10:30～15:00
●内　　容／10:30～12:00　医学教育カンファレンス
研修医からの症例提示、検討
13:00～15:00　指導医シンポジウム
講演、パネルディスカッション
●講　　師／ピーター・バーネット氏（Dr. Peter Barnett）
テーマ「研修病院におけるコミュニケーション教育」
●申込方法／Ｅメールまたは電話にてお申込ください。Ｅメールの場合は「シンポジウム参加希望」と明記し、「氏名」「医療機関名」「診療科」「医学教育カンファレンス及びシンポジウムの参加の有無」を記載して送信してください。
（メールアドレス及び電話番号は下記のものをご活用ください。）

【講師プロフィール】
1978年　ハワイ大学医学部卒業
1990年　ワシントン大学公衆衛生修士課程修了
現　　在　ニューメキシコ大学医学部臨床医学准教授・
ＣＲＣシルバーストリートクリニック院長
専門分野：医学教育，老年科，医療コミュニケーション
著　　書：『臨床研修プログラム戦略ガイド(診断と治療社)』

※参加者には、筑波大学附属病院初期研修コースのレジデント・レクチャー1単位および茨城県医師会認定の生涯教育講座参加証3.5単位が認定されます。

昨年度の様子

■大学医学部県地域枠の受験者募集

●募集人数　①筑波大学7名・東京医科大学5名
②東京医科歯科大学2名・杏林大学1名
●修学資金貸与額　月額15万円
●返還免除　知事の定める医療機関で9年間勤務する場合
●面 接 日　①10月16日（土）、10月17日（日）
②11月27日（土）、11月28日（日）
●面接会場　茨城県庁11階会議室
●応募期間　①9月13日（月）～10月6日（水）
②10月21日（木）～11月17日（水）
※詳細は下記ホームページをご覧ください

■ホームページのリニューアル 予告

茨城県医師確保支援センターのホームページをリニューアルします。

サイト内検索ができるようになったり、各ページのデザインを統一したりするなど、知りたい情報を探しやすくします。皆さんにお役に立てる情報を随時掲載していきますので、ぜひご活用ください。

茨城県医師確保支援センター
茨城県水戸市笠原町978番6（保健福祉部医療対策課内）TEL：029（301）3191
http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/ishikakuho/top/index.html　E-mail：i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp